

新潟教育研究所

平成30年3月8日発行 第37号

公益財団法人 新潟教育会
新潟教育研究所

〒951-8104

新潟市中央区西大畑町590-3
URL <http://kyouikukai.jp>

新潟教育会館

TEL・FAX 025-222-2971

E-mail kenkyujo@kyouikukai.jp

保健教育の充実を めざして

新潟青陵大学

塚原加寿子



「あなたの夢をかなえるために必要なものは何ですか？」看護を学ぶ大学生に問うと、様々な答えが返ってきます。「学力」「お金」「集中力」「人脈」「ファンクラブへの入会」・・・。「健康」という言葉はなかなか出てきません。健康は、自己実現に向かうための大切な資源です。健康の価値を認識し、健康を保持・増進できる力を高めるためには、幼少期から系統性のある保健教育が重要です。

新学習指導要領では、従前どおり、小学校3年生から保健学習が位置づけられています。小学校保健領域の目標は、身近な生活における健康・安全についての「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の観点で示されました。「技能」が新たに加わったことが改善点です。小学校では、「心の健康」において不安や悩みへの簡単な対処をすること、「けがの防止」においてけがなどの簡単な手当てをすることが新たに「技能」に関する内容として位置づけられています。また、これまでの疾病の予防や健康の保持増進に加えて、健康の回復についても触れることとなり、5、6年生において、「自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組む態度を養う」ことが示されました。

中学校でも、同様に目標に「技能」が加わり、「ストレスの対処をすること」「救急手当をすること」について、「技能」の内容が新たに位置づけられました。「技能」の指導については、単

に実習を行い、技能としてできるようにするだけではなく、原理・原則などの「知識・理解」を伴った「技能」を身につけることが必要です。また、内容の取り扱いについても、小学校及び高等学校との系統性から「健康な生活と疾病の予防」が1年生から3年生の全ての学年で学習することとなります。「疾病の回復」や「がん」についても取り扱うものとなりました。

平成20年中教審答申では、「子どもの現代的な健康課題の解決に向けて、学級担任や教科担任等と連携し、養護教諭の有する知識や技能などの専門性を保健教育に活用することがより求められている。」としています。一方、先般行った養護教諭の職務に関するアンケート調査では、校長・担任とも、養護教諭には、救急処置や健康相談などの「保健管理」、心身の健康問題や生徒指導上の問題を抱える子どもへの「個別の教育的支援」へのニーズは高く、「保健教育」へのニーズは低い傾向にありました。「保健室来室者への対応だけでも忙しそうだから」「授業に出ている間、けがや体調不良の子への対応が心配」など様々な理由があると思います。しかし、「授業に出ることで、保健室経営が変化した。子どもの健康への認識が深まった。」と感じている養護教諭もいます。新学習指導要領では、養護教諭の知識や技能が活かせる単元が多くあり、すでに先行実施している学校もあります。養護教諭の力も活用し、学校全体で保健教育を推進していくことを願っています。

筋書きの書けない ドラマづくりを楽しむ

新潟教育研究所 教育アドバイザー

湯 本 正 明



1 はじめに

VRシステム等の進化により、私たちは様々な仮想現実を体験できるようになった。車もじきに自動運転になり、やがてAI中心の世の中で子どもたちは生きていく。そんな時代だからこそ、子どもたちが自らの五感を総動員させ、心をときめかせ、現実の暮らしづくりに熱中していく活動を大事にしたい。このアナログ的な活動を楽しめるのが特別活動（以下特活）の魅力だろう。

2 特活で重要なのは数値か

教育研究の成果を示す際に、その根拠として数値的評価が求められる。正答率が何%向上、何%の者が技能向上とかである。ところが特活においては、数値的な根拠を示すことが難しい。とにかく、頑張った子どもの姿を示すだけでは不十分で、その価値を具体的な数値を根拠に示せと言われる。そこで、QU調査などを活用し、個や集団の変容を具体的な数値で見ようとする試みがなされる。

しかし、そもそも特活において数値的評価が必要なのか。目の前の子どもたちと日々格闘している担任が一番求めるのは数値ではない。仲間と共に熱中する子どもの「姿」が欲しいのだ。

3 労多くして

学校での生活は子どもたちが社会性を培う場である。個性と個性がぶつかり合い、様々な問題が生じる。その問題に対して、話し合い活動や実践活動など具体的な集団活動を通して解決を図っていくのが特活だ。年間指導計画はあっても、その通りにはいかない。例えば、学級活動の題材が指導計画上35時間分担当されていたとしても、子どもの実態に即さないなら扱う価値は低い。子どもたちが真に求める題材であれば、たとえ何時間かけてでも扱うべきだろう。ところが、担任の思惑通りになかなかことは運ばない。労多くして成果が見えにくいのも特活である。

4 「あそび」を大事にしたい

多忙化が問題視され、働き方改革が急激に求められている。多忙化に拍車をかけるものをできるだけそぎ落とし、必要最小限のものを残していく。時代の流れである。教育計画のスリム化という点から言えば、筋書きがなく這い回るような活動は、そぎ落とされる筆頭になりそうだ。効率的に時間を使い、効率的に成果を出すものの対極にあるからである。特活や総合などは、多忙化を招く諸悪の根源のように思われているかもしれない。

しかし、ハンドルの「あそび」のように、すぐには動作に結びつかないが、安心安全な運転には絶対に欠かせないものがある。あそびのないハンドルほど危険なものはない。子どもたちの暮らしも同様で、もしも「あそび」がなかったら、潤いがなく味気ないものになってしまう。この「あそび」こそ特活の大切な役割である。

子どもたちと共に過ごす時間が確保できなくて苦慮する担任が多い。しかし、単に時間の確保だけでいいのか。子どもたちと共に熱中する「とっておきの活動」が学級内に息づいていれば、その活動の活性化のために、何としても時間を確保しようとする。もしかするとその時間は、一見実に効率悪く写るかもしれない。ちょっと進んだと思ったら逆戻り、協力し合ったと思ったら反発の繰り返し。筋書きが書けないのだから、前進だけではないのは当然だ。しかし、そこには子どもの主体的な学びがあり、互いに支え合う優しさがある。

5 おわりに

野菜嫌いの子でもでも、自分で汗して作った野菜は美味しい。自分で釣った魚も旨い。同様に、自分たちで苦労して創り上げる学級生活は、何ものにも代えがたい宝物になる。目の前で生起する様々な問題を、「今が成長のチャンスだ」と思えるようになりたいものである。

日本初の公立小学校小千谷小学校の開校

について やまもと ひ ろ き 山本比呂伎の戦い～

新潟教育研究所 研究員

熊倉 忠夫



昨平成29年(2017)10月1日、小千谷市立小千谷小学校は開校150周年を迎えた。公の小学校教育の開始は明治5年の学制からなのでおかしいのではないと思われる方々が多いであろう。しかし、小千谷小学校こそ日本初の公立小学校なのである。その開校のいきさつを述べてみよう。

1 小千谷という土地柄

江戸時代中期から小千谷縮の取引で、小千谷は江戸や京・大阪と交流があった。富裕な商人も多く、それに伴って神南誠敬、廣川晴軒、佐藤雪山などの学者を輩出した学問好きの土地柄である。この地を訪ねたり、移り住んだ文化人も多い。

小千谷は江戸時代末期、会津藩の支配下にあった。慶応4年戊辰戦争初めころ、小千谷の有力者は会津藩に3,750両もの資金を課され、それに応じた。しかし、庄屋の佐藤半左衛門、これから述べる山本比呂伎は勤王の志をもっており、雪峠の戦いで勝利した新政府軍進入の折は出迎え、その宿営地の役を果たした。新政府を支持する立場をとったわけである。そのような中で河井継之助と岩村精一郎による慈眼寺談判、その決裂によって長岡戦争が行われたのである。

2 学校創営の建白書 1回目

慶応4年8月、長岡戦争敗北直後、縮み商人の末裔である山本比呂伎は当時の柏崎県知事に小学校創営の願いを差し出した。小千谷に流れ込んだ長岡藩の子弟の見るに忍びない窮状から発したものであった。山本の論理は次のようである。

新政府の現今の重要課題は、人材育成と明倫恤救(人々を憐れみ救うこと)にある。

↓

長岡藩の子弟が哀れにも放置されている。

↓

かれらを近郷の子弟とともに教育したい。

国に役立つ人材を育成することができる。

↓

そのために公の学校をつくりたい。是非認可を。5か年の内に千両を寄付する。

3 2回目の建白書 明治元年9月

ひと月たっても認可が下りないので再度の建白書を差し出した。(9月8日、明治と改元された。その後である)

長岡藩の子弟は飢えに泣き、野にさまよっている。寒い冬を迎え、救うのは急務である。

↓

かれらは天下の益人、敵味方の差別ない同じ子どもである。徳性を育てたい。

↓

かれらと共に地域の子弟も同じ学校に入れ教育を受けさせたい。よい方に感化される。

2つの建白書は熱のこもった、かつ、教養に満ちあふれた文章である。特に2回目の建白書には中国古典の『易経』『書経』『孟子』『礼記』を縦横に引用し論を進めている。県知事は大層驚いたことであろう。一介の町人の文章である。

ついに、10月1日(太陽暦11月14日)、県から学校設立の認可が山本のもとへ届いた。

4 なぜ公の学校なのか～山本の真意～

山本は地元小千谷の子どものために公の学校をつくってほしいと県に直接願っても聞き届けられないと分かっていた。では、どうするか。

長岡藩の子弟の窮状を前面に出し、彼らを教育することを熱心に訴えた。新政府が、敗北した敵である藩の子弟を寛大に扱えば、新政府の仁政を人々に示し、民心を安定させることができ、ひいては新政府のためになると考えたのである。

そのことを具体的に表すものは、敵味方の差別なく、だれもが入れる公の小学校設立であった。



十日町・千手小学校の校内研修会にお招きいただいた。学習指導要領の改訂を念頭に置いて「学力向上と授業改善」をテーマに1時間ほど話しをしてほしいとのことであった。会場に入るなり、先生方の真剣な表情に圧倒された。学校現場では、最もホットな課題になっていることを感じた。

● 校内研修会で話したこと

1 「アクティブ・ラーニング」の求めるもの

学校現場の努力により、国際比較では、日本の子どもの学力は世界トップレベルを回復した。にもかかわらず根本的な授業改善が叫ばれている。今次改訂の指導理念である「アクティブ・ラーニング」（能動的な学び）が主張されるその背景とその先に備わってくるものを、まずは確認しなければならない。

<背景にあるものとは>

・「学習への動機付けや社会との連関、自己肯定感の低さ」への危機感→「自信と意欲を持たせる教育へと学習の質を転換せよ」との強い期待

<その先に備わってくるもの>

- ① 他者と協働しながら「正解のない問題」に対応する力

② 知識・技術を活用しながら新しいものを創り上げていくような力

③ みんなが納得する解、みんなが最適と思う解を導き出していくような力

2 研究体制の充実

新しい時代の新しい授業への挑戦である。求める授業をイメージし、自分の研究教科から授業像を固めよ。授業公開を通して提案せよ。互いの良さを取り入れよ。そして、型を求めて型から出よ。そのためにも、研究全体計画に基づく全校体制での取組だけでなく、個人研究計画に基づく主体的な研究推進を重視し、推進状況を公開することを大切にする。

(1) 全校体制での取組

校長：自校の課題とビジョンの明確化

研究主任：授業イメージ、ボトムアップの研究

教諭等：ミッションの自覚 研究主題の共有 等

(2) 個別の研究計画

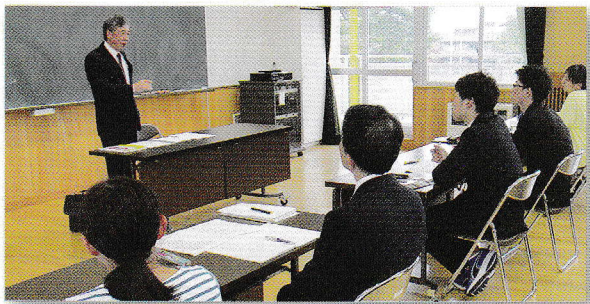
個人研究計画の作成～研究主任との相談

年間研究開発単元と授業公開の計画 等

時代が変わっても教材研究は教師の基礎基本。子どもを見つめる目はさらに磨かなければならない。研修は意欲を持って教師を続けるための原点であることを胸に、一步の歩みを大切にしたい。

教育アドバイザーを要請して

平成29年5月12日（金）に荒木正様より「学力向上と授業改善」をテーマにご講義をいただきました。



十日町市立千手小学校 尾身 聡 志

「主体的・対話的で深い学び」の具体と、そのような学びが求められるようになった背景について、詳しくお話くださいました。アクティブ・ラーニングが、「やるべきもの」から「やりたいもの」へと変化していく私がありました。

「研修は意欲を持って教師を続けるための原点である。」という言葉が心に染みしました。明日の授業に向かって、勇気をいただいた講義となりました。